



たいよう

第3号 令和8年5月29日(金)

- 【た】 たくましい子
- 【い】 生き生きと活動する子
- 【よ】 よく考える子
- 【う】 美しい心の子

「命を守るために」～引き渡し訓練を通して考えたこと～

校長 関根 努

5月8日に実施した引き渡し訓練では、多くの保護者の皆様にご協力いただき、ありがとうございました。今回の訓練を通して、改めて「命を守る行動」について考える機会となりました。災害は、いつ起こるかわかりません。だからこそ、日頃から備えておくことが大切だと感じています。

先日、慶應義塾大学環境情報学部准教授の大木聖子（おおきさとこ）先生の講演を伺う機会がありました。その中で特に印象に残ったのは、「耐震化された学校校舎の倒壊事例は皆無である」というお話です。現在、公立小中学校の耐震化はほぼ完了しており、学校の校舎は高い安全性を備えています。

これまでの避難訓練では、「地震が起きたら校庭へ避難する」という形が一般的でした。しかし、大木先生のお話では、大きな揺れの中で無理に移動することの危険性についても触れられていました。実際の地震では、歩くことも難しいほどの揺れが発生したり、避難途中に転倒したり、階段で混乱が起きたりする事例も報告されています。

そのため、まず大切なのは、「児童の安全を第一に考えること」です。状況によっては、慌てて校庭へ避難するよりも、教室で机の下に入り、落下物や余震から身を守りながら待機の方が安全な場合もあります。避難すること自体が目的ではなく、「その時、その場所で、最も安全な行動をとること」が重要なのだと改めて感じました。

本市では、震度5弱以上の地震が発生した場合、保護者への引き渡しを行うこととなっています。本校では、大地震が発生した際には、まず児童の安全確認と安全確保を最優先に対応します。そのため、保護者の皆様には、学校へ到着後、すぐに校舎内へ入るのではなく、昇降口や校庭等でお待ちいただくことにご協力をお願いしております。児童の安否確認や校内の安全確認には、発生から30分程度かかることも想定されます。実際の災害時には、通信状況の悪化により、メール等の連絡が届かない場合もあります。だからこそ、まずは保護者の皆様ご自身の安全を確保し、落ち着いて学校へ来校していただければと思います。



また、首都直下地震や南海トラフ地震など、今後大地震が発生する可能性も指摘されています。学校では、子どもたち一人一人が「自分の命を守る力」を身に付けられるよう、これからも安全教育や避難訓練に継続して取り組んでまいります。ご家庭でも、防災について話し合う機会をもっていただければ幸いです。

